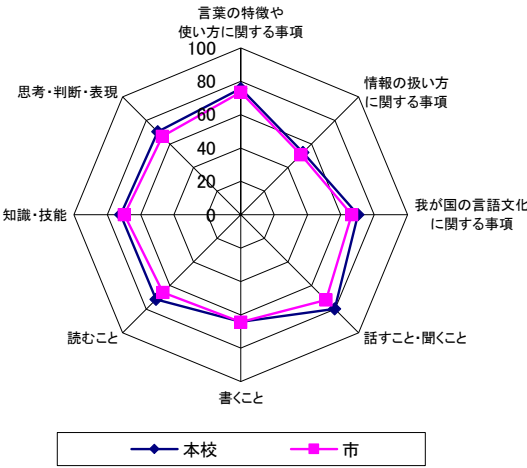


宇都宮市立峰小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	75.7	73.5	74.4
	情報の扱い方に関する事項	52.7	51.0	51.5
	我が国の言語文化に関する事項	70.3	66.5	68.8
	話すこと・聞くこと	79.7	72.3	73.7
	書くこと	64.2	64.3	66.6
	読むこと	71.8	65.8	64.9
観点別	知識・技能	72.0	69.8	70.8
	思考・判断・表現	70.4	66.5	67.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

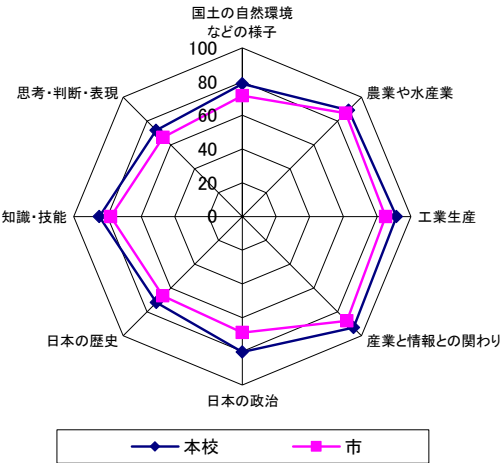
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使い方に関する事項	本校の平均正答率は75.7%で、市の平均を2.2ポイント上回っている。 ○漢字の読み書きについては正答率が高く、よくできている。 ●敬語の設問では正答率が16.2%と低く、市の平均を6ポイント下回っており、課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・学校での学習に加え、漢字ドリルや小テストを活用するなど、引き続き、繰り返し学習の充実を図る。 ・敬語や接続語などの文法学習について、授業の中で積極的に取り上げる機会を設けるなど、継続的に指導していく。
情報の扱い方 に関する事項	本校の平均正答率は52.7%で、市の平均を1.7ポイント上回っている。 ○情報と情報の関係について理解し、文章の情報を整理しているかを問われた設問では、市の平均を7.4ポイント上回った。 ●情報と情報との関係について理解し、目的に応じて文章を簡単に書くことに関する設問では、平均正答率は47.3%で、市の平均を4ポイント下回った。	・文章を読み、適切に情報を整理して理解する練習を普段の授業でも取り入れ、引き続き指導していく。 ・情報を適切に理解した上で目的にあった文章を書く練習を、授業や課題等を通して行い、能力の向上を図る。
我が国の言語文化 に関する事項	本校の平均正答率は70.3%で、市の平均を3.8ポイント上回った。 ○和語、漢語、外来語について問われた設問では、市の平均を3.8ポイント上回っている。	・新出漢字を学習する際は、漢字の由来等についても触れるようにする。 ・授業やその他の活動において、同じ意味を持つ和語、漢語、外来語について、考える機会を設定し、様々な言語文化に興味をもてるように心掛けた結果が反映されていたため、引き続き指導を継続していく。
話すこと・聞くこと	本校の平均正答率は79.7%で、市の平均を7.4ポイント上回った。 ○どの設問においても、市の平均を上回っていて、高い正答率となっている。	・一分間スピーチや授業で話す活動を行う際に、目的に沿った内容や相手に伝わりやすい話し方を意識する指導を行う。 ・インタビューをする際には、話の内容を正確に聞き取る練習をするとともに、自分が聞こうとする意図に応じた質問ができるように、質問の内容を工夫する指導をする。
書くこと	本校の平均正答率は64.2%で、市の平均と0.1ポイント差であり、ほぼ同じ結果となっている。 ○目的や意図に応じて書き表し方を工夫する設問では、市の平均を6.5ポイント上回っていて、よくできていると言える。 ●予想される反論とそれに対する意見を書く設問の正答率は44.6%で、市の平均を2.5ポイント下回った。	・自分の考えが読み手に正しく伝わるよう、文章の構成や書き方を工夫する力をさらに育てていけるよう、作文指導や討論活動の中で引き続き指導していく。 ・相手の反論を予想し根拠のある意見を書いたり、条件に合った文章を書いたりする活動を行い、書く力を高めていく。
読むこと	本校の平均正答率は71.8%で、市の平均を6ポイント上回った。 ○物語文、説明文のどちらにおいても正答率が高く、特に、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げる設問では、平均正答率は93.2%で市の平均を4.9ポイント上回った。 ●文章全体の構成を考えて要旨を把握する設問では、市の平均を10.6ポイント上回ったものの平均正答率が45.9%にとどまった。	・朝読書などを通し、様々な表現方法に触れ、登場人物の心情を捉えたり、それをまとめたりする機会を引き続き多く設ける。 ・授業の中で、自分の考えをしっかりともち、自分の考えと比べながら友達のを聞く学び合いの場を多く設定したことが結果につながったため、継続して指導する。 ・説明文において、文章を要約する活動や、筆者が伝えたいことに注目しながら文章を読む指導を行うことで、文章全体の要旨を把握する「読む力」の更なる向上を図る。

宇都宮市立峰小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	78.6	71.6	69.6
	農業や水産業	89.2	86.7	83.7
	工業生産	91.4	85.0	79.5
	産業と情報との関わり	93.2	87.7	77.4
	日本の政治	80.4	68.9	71.7
	日本の歴史	72.1	66.7	66.3
観点別	知識・技能	84.8	78.0	76.7
	思考・判断・表現	72.3	66.4	63.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

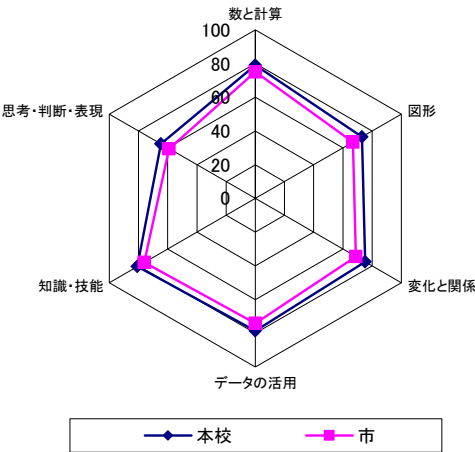
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境 などの様子	本校の平均正答率は78.6%で、市の平均を7ポイント上回っている。 ○オーストラリアの位置と国旗を選択する問題の平均正答率は、市の平均を10.8ポイント上回っている。 ●国内の林業が抱える問題を考える問題では、市の平均を8ポイント上回っているが、平均正答率が43.2%と低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・資料を読み取り活用する力を育てるため、今後も教科書の表やグラフから読み取れることを考えさせる。 ・農業や林業での仕事内容をまとめたり、働く人の工夫や努力を考えたりする活動に力を入れる。 ・新出の地名や語句については、学習プリントやAIドリルなどを用いて、繰り返し学習することで、定着を図る。
農業や水産業	本校の平均正答率は89.2%で、市の平均を2.5ポイント上回っている。 ○米の生産が盛んな地域についての理解をもとに資料を選択する問題では、平均正答率が93.2%で市の平均を2.7ポイント上回った。	・農業で働く人々がかかえる問題について、デジタル教材や資料集を活用して問題を把握し、話し合いを通して解決策を考えるような、問題解決型の授業を引き続き行っていく。 ・地図帳を活用し、地形の特徴や土地利用の様子などを考えたり、地域により盛んな産業があることに気付かせたりする活動を行う。
工業生産	本校の平均正答率は91.4%で、市の平均を6.4ポイント上回っている。 ○自動車の製造工程についての問題では、平均正答率が97.3%であり、市の平均を8ポイント上回っている。 ●日本の工業生産について、石油のほとんどを輸入に頼っていることを記述式で答える問題では、市の平均を上回っているものの正答率が80%弱であり、無回答者が9%となっている。	・円グラフなどの資料を読み取って分かることをノートにまとめたり、グループで話し合ったりするなど、資料を活用して考え、社会的な事象を導いていく力を育てていく。 ・資料から読み取ったことをもとに、どのようなことが分かるのかを発表したりノートに書いたりする活動を多く取り入れ、自分の考えを表現する力を養う。
産業と情報との関わり	本校の平均正答率は93.2%で、市の平均を5.5ポイント上回っている。 ○情報の発信と受信の注意点に課する問題では、平均正答率が87.8%で、市の平均を8.7ポイント上回っている。	・情報産業や情報化社会の領域においては、自分の身の回りの問題であるという認識をもたせながら、正確な情報を受け取り発信する力を定着させるとともに、自ら判断できるように情報モラルについても指導していく。 ・映像資料を活用して視覚的な理解を促していく。
日本の政治	本校の平均正答率は80.4%で、市の平均を11.9ポイント上回っている。 ○日本国憲法の記述を理解し、天皇の地位について答える問題では、平均正答率が85.1%で、市の平均を22.1ポイント上回っている。 ●内閣の働きを理解し、記述式で「内閣」と答える問題では、市の平均を15.7ポイント上回ったものの平均正答率が58.1%と低い。	・時事問題を取り上げ、日本国憲法や三権分立など日本の政治の仕組みについて考えさせ、自分たちの生活と密接に関係していることを実感させていく。 ・日常のノート指導を通して、より良いノートのつくり方やまとめ方を身に付けたり、難しい漢字を覚えさせたりしていきたい。
日本の歴史	本校の平均正答率は72.1%で、市の平均を5.4ポイント上回っている。 ○源氏物語について答える問題では、平均正答率が90.5%と高く、市の平均より13.3ポイント上回っている。 ●元との戦いについて、防塁を作った理由を記述式で答える問題では、平均正答率が28.4%であり、市の平均とほぼ同じであった。	・出来事が起こった年だけではなく、その理由や背景を考えることで、思考力・判断力・表現力を育てるようにしていく。 ・基礎・基本の学力が定着するよう、振り返る場を計画的に設けて知識の構築を図るようにしていく。

宇都宮市立峰小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	79.1	75.1	75.8
	図形	73.0	66.8	68.3
	変化と関係	75.2	68.8	65.0
	データの活用	78.6	74.1	63.6
観点別	知識・技能	80.8	76.1	75.8
	思考・判断・表現	64.7	59.0	51.7

※参考値は、他自治体において同じ問題による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

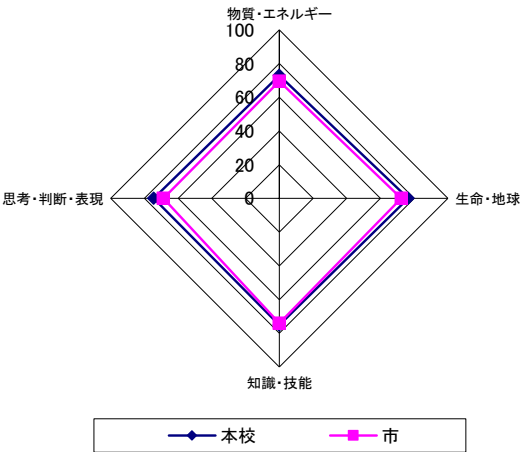
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	本校の平均正答率は79.1%で、市の平均を4.0ポイント上回っている。 ○文字を使って、2つの数量の関係を1つの式に表す問題の平均正答率は81.1%で、市の平均より8.9ポイント高い。 ●小数第一位×小数第一位の計算問題で、小数同士の乗法をする問題では、平均正答率が70.3%と他の問題と比べて低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・整数、小数、分数における四則計算の確実な習熟を図るために、AIDリルや選択式のプリント学習等、個に応じた練習に繰り返し取り組ませ、主体的な学習態度の醸成を図る。 ・分数のかけ算・わり算の意味理解では、線分図や面積図により説明する活動を取り入れてはいるが、再度確認する時間を設け、一層の深化を図る。
図形	本校の平均正答率は73.0%で、市の平均を6.2ポイント上回っている。 ○角柱の体積を求める問題や、正六角形の作図方法から円の中心のまわりにできる角の大きさを求める問題は市の平均より13ポイント以上高い。 ●合同な三角形を作図する問題では0.5ポイント、線対称でも点対称でもある図形を選ぶ問題では1.6ポイント、市の平均を下回っている。	・合同な三角形を作図する問題では、角や辺の長さのどの要素を使えばよいか作業的活動の中で捉え、実際に作図することで習熟を図る。 ・線対称・点対称な図形については、対象の軸と対応する頂点との関係について、測定や作図を通して特徴や性質を理解させ、活用能力を深めさせる。
変化と関係	本校の平均正答率は75.2%で、市の平均を6.4ポイント上回っている。 ○表から面積と数の割合を求め、密度の高い数値を選択する問題の平均正答率は82.4%で市の平均より9ポイント高い。 ●基準量と比較量から割合を求める問題では、正答率が市の平均を上回っているものの58.1%と本領域において低い。	・「割合」の問題については、基準量、比較量、割合について数直線に表す活動を通して3項目の関係を確実に捉えられるようにするとともに、典型的な文章問題の解決を通して数学的な見方・考え方の醸成を図る。 ・「速さ」における秒速・分速・時速の問題については、数直線に表現することを通して比例関係にあることを理解することで解決できるようにする。□
データの活用	本校の平均正答率は78.6%で、市の平均を4.5ポイント上回っている。 ○本領域のすべての問題において市の平均を上回っていて、円グラフを読み取る問題では、正答率が93.2%と本領域において最も高い。 ●問題の場面を理解し、道のりの平均値を求め活用する問題では、市の平均を9.8ポイント上回っているものの、本領域の他の問題と比べ51.4%と正答率が低い。	・データをもとにした考察の仕方では、ドットプロットや柱状グラフ等の示す内容や特徴について改めて理解を促し、平均値・中央値・最頻値といった代表値との関係について考える場をしっかりとるようになる。□

宇都宮市立峰小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	73.0	69.5	65.2
	生命・地球	76.4	72.3	70.1
観点別	知識・技能	75.2	74.0	70.7
	思考・判断・表現	74.5	68.7	65.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	本校の平均正答率は73.0%で、市の平均を3.5ポイント上回っている。 観点別では、知識・技能の平均正答率は、71.4%で、市の平均を0.9ポイント下回った。一方、思考・判断・表現は、78.3%で市の平均を2.8ポイント上回った。 ○「物のとけ方」「ふりこのきまり」については、実験の条件制御や計算を使って結果を求めることなどの思考問題について市の平均を大きく上回った。 ●「水溶液の性質」では、性質とリトマス紙の色の変化の関係の理解の問題で4.0ポイント、金属が薄い塩酸に溶けることの理解で10.1ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・実験の目的に応じて一人一人が器具や機器などを正しく使いながら調べられるよう環境を整えたり、実験の過程や得られた結果を適切に記録できるようノート等の指導を行ったりして、知識の定着を図っていく。 ・実験の結果を多面的に見取る力や、より妥当な考えを作り出そうとする力を育てるため、話し合う時間の確保を十分にとることに努める。 ・身の回りの事象と関連付けて問題を見出し、予想や仮説をもとに解決の方法を発想できるよう、自分に関わることを解決していく意識をもてるような授業の導入を行っていく。
生命・地球	本校の平均正答率は76.4%で、市の平均を4.1ポイント上回っている。 観点別では、知識・技能の平均正答率は、74.0%で、市の平均を6.3ポイント、思考・判断・表現は、74.9%で市の平均を5.1ポイント上回った。 ○「生物と環境」や「植物のつくりとはたらき」では、市の平均を大きく上回った。食物連鎖や植物のつくりなどについて理解したことから、提示された実験の結果を正しく導き出すことができた。 ●「月と太陽」では、実験から和歌がよまれた時の月の形を推測する問題の正答率が市の平均を上回っているものの32.4%と低かった。現象のモデル化、知識を生活に生かす力に課題が見られる。	・手に取って調べられない事象や現象について、より分かりやすくなるよう、具体的な資料等を工夫する。また、現象のモデル化を児童自身が工夫できるようよりよい働きかけを研究、工夫していく。 ・学んだことを自分や自分の周りのことに結び付けられるよう助言したり、考えが深まる働きかけをさらに行ったりしていく。学習したことと生活を結び付ける指導助言だけでなく、考えを述べ合う時間の確保をしていく。

宇都宮市立峰小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
自分の考えをもった上で友達と積極的に意見を交流し、自らの考えを修正したり深めたりする力の育成	教材やICTを効果的に活用し、自分の考えをペアや小グループで伝え合ったり、ノートやタブレットにまとめ、意見交換をしたりする機会を設けている。	3,4年生の「ものごとを比べながら考えている」5,6年生の「ものごとをいろいろな視点や立場から考えている。」の設問の肯定割合はすべての学年で市の割合を上回っている。また、3,4年生の「自分の考えを、理由をあげながら話すことができる。」5,6年生の「自分の考えを、根拠をあげながら話すことができる。」の設問の肯定割合もすべての学年で市の割合を上回っている。
目標やめあてに基づき、学んだことを振り返る活動の充実	学習展開を工夫して、今行っている学習活動を意識させ、授業を振り返るための視点を児童に与えている。	「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる。」の設問の肯定割合は5年は市の割合と同程度、3年、6年は12.1ポイント、4年は18.6ポイント、市の割合を上回っている。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

国・県の調査ともに国語の「書くこと」の領域で、それぞれの平均と比べ高くなっていて、市の調査では同程度であった。算数の「データの活用」の領域においては、国・県・市の調査ともに、それぞれの平均を上回り、県の調査においては、4年生が23.9ポイント、5年生が18ポイント上回ったが、無回答率も高かった。

国の児童質問紙「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができている。」県の児童質問紙「クラスの友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができている。」の肯定割合は県の平均と同程度で国の調査は平均を上回った。市の児童質問紙3,4年生「物事を比べながら考えている。」5,6年生「物事を色々な視点や立場から考えている。」の肯定割合は全学年とも平均を上回った。また「自分の考えを根拠をあげながら話すことができる。」の肯定割合も全学年ともに平均を上回った。教科を問わず様々な活動を通して、話し合う場を設定し、互いの考えを聞いたり共有したりする活動に意欲的に取り組んできた成果と言える。引き続きテーマや文字数などの条件に合わせた作文指導に取り組むとともに、自分の考えを整理してまとめたり、考えを深めたり広げたりできるような指導の充実を図っていく。

県の児童質問紙「新しく習ったことは、何度もくり返して練習している。」の肯定割合は3,6年生においては、平均を10ポイント以上、4年生も4.4ポイント上回ったが、5年生は3ポイント下回った。一方で「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる。」の肯定割合は全学年とも平均を10ポイント以上上回った。計画を立てて学習に取り組む習慣はできているので、学習内容の精選をし、繰り返し復習をすることで更に学習の習熟が図れるような指導をしていく。